

# 生薬・方剤学入門

2013年九鼎会春合宿  
熊本大学東洋医学研究会

# 1. 生薬・漢方薬とはなにか？

# 1-1. 生薬と漢方薬

## 生薬とは

- 天然物に、簡単な操作・加工を施して作った薬物。
- 有効成分の精製はしない。
- 漢方医学では、生薬を単独で用いる例は少ない。  
(例外：甘草湯, 独参湯など)  
⇒ 漢方薬の材料とする。

## 漢方薬(方剤)とは

- 複数の生薬の組み合わせからなる複合処方。
- 組み合わせや構成比を少し変えることにより、作用が大きく変化する。

# 1-2. 漢方薬と民間薬の比較

## 漢方薬

- 基本的に、**複数の生薬**を組み合わせて作る。
- 医学理論に立脚。

## 民間薬

- 庶民の間に伝承されてきた薬のこと。
- 生薬が**単品**で用いられることが多い。
- 民間伝承に立脚。

# 1-3. 漢方薬と西洋薬の比較

## 漢方薬

- 生薬の複合処方  
⇒成分の抽出・精製なし。  
様々な有効成分が含まれる。
- 副作用が比較的少ない。
- 検査をしても異常がないのに自覚症状があるというような場合に適す。

## 西洋薬

- ①天然物から有効成分を抽出したもの
- ②化学合成物質。
- 効き目は鋭く、しばしば副作用が現れる。
- 病気の原因が特定できる場合や重症の感染症の場合など直接的に治療を施す場合に適す。

## 2. 生薬の基本的性質

## 2-1. 性味 — 四気・五味

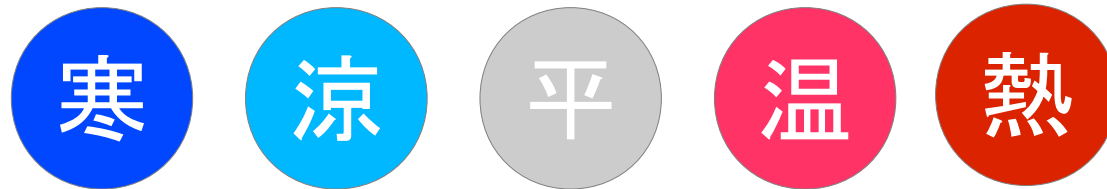
生薬に備わった基本的な性質を表す概念として、代表的なものに「**性味**(気味)」というものがある。

- **性味**(気味)...生薬の**薬性**と**味**のこと。
- **薬性**...生薬が体を冷やすか温めるかという性質、  
**四気**
- **五味**...生薬の味を五つに分けたもの。

## 2-1.1 薬性・四気

伝統的に生薬の薬性は、寒・涼・温・熱の四種類の性質に分類され、これらを**四気**という。

現在では、中立のものとして、平を加え、五種類に分類するのが一般的である(**五性**)。



寒薬は熱性の病態(熱証)に用い、熱薬は寒性の病態(寒証)に用いるのが原則。

(平性の薬物はいずれにも用いる。)



	主作用	主な生薬
寒	体を冷やす作用が強く、 鎮静・消炎作用がある。	黄連、石膏 など
涼	体を冷やす作用がある。	薄荷、葛根、 など
平	寒涼温熱いずれにも属さ ない中立の薬物	甘草、茯苓 など
温	体を温める作用がある。	麻黄、当帰、 桂枝など
熱	体を温める作用が強く、 興奮作用がある。	山椒、胡椒、 附子など

## 2-1.2

# 五味

代表的な生薬の味として、酸・苦・甘・辛・鹹の五種類があり、これらを五味という。

(五味の他には、淡や渋がある。)



	主作用	主な生薬
さん 酸	収斂・固渋：発汗を抑制する。 下痢や脱肛を治す。	五味子 烏梅など
く 苦	清熱・瀉下：熱を鎮める。便秘改善。 燥湿 余分な水分を取り除く。	黄連・杏仁 など
かん 甘	補養・緩和：気を補い、血を養う。(栄養) 脾胃の機能低下を補う。	人参・甘草 麦門冬など
しん 辛	発散・活血：鬱滞しているものを発散し、 行気・理気 停滞しているものを動かす。	生姜・麻黄 薄荷など
かん 鹹	軟堅・潤下：かたいしこりを柔らげる 便を下す(マイルドな瀉下)	ぼれい ぼうしょう 牡蠣・芒硝 など

# 五味と五臓の対応



## 2-2. その他の基本的性質

- 帰経

各薬物が、どの臓腑・経絡に対して、その主たる薬効を有するかを示す概念。

- 昇降浮沈

薬物の作用の方向性を意味する概念。

上昇・下降・発散・泄利

# 3. 方劑の基本原則 ～君臣佐使～

## 3-1. 方劑

- 諸々の生薬を組み合わせることで、治療の効果を高めたり、副作用を抑えたりすることができる。
- 漢方においては、このような生薬の複合処方(方劑)を使うことが普通であり、これを漢方薬・漢方方劑などと呼ぶ。
- 方劑の組成は闇雲ではなく、「君臣佐使」という組成法則に則ってなされる。

## 3-2. 君臣佐使

- 生薬に、それぞれに“君・臣・佐・使”という4つの役割を担わせ方剤を調合するという考え方。

※4種すべてを含んではいない方剤もある。

- 方剤中の構成生薬は役割に対応して、それぞれ**君薬・臣薬・佐薬・使薬**に分けられる。



## 君薬

主となる病態を治療するもので、処方中の**主薬**。処方には必ず**1味か2味**の主薬があり、**薬用量は比較的大量**である。

## 臣薬

君薬を補助し、その作用を強める働きをする。

## 佐薬

君薬・臣薬の補助として、**付随する症状を治療**したり、**君薬の毒性や副作用を抑える**などの働きをする。

## 使薬

諸薬を**調和**したり、**他の薬を誘導**して病所に到達させる(これを**引経薬**という)ものである。

# 君臣佐使のイメージ

